

自立活動学習指導案

難聴通級指導教室（たいよう教室）1人（女子）

指導者 北川 政人

1 題材名 「よく見て、よく聞こう」

2 題材について

(1) 題材の価値

対象となる子どもは、第1学年の通常の学級に在籍し、日常生活において補聴器を常時装着している。補聴器装着時の聞こえも比較的良いことから、日常的な会話のレベルであれば、相手の話をある程度聞き取り理解することができる。また、発音に関しても明瞭であり、友達や教師と身の回りの出来事などの話をすることも大好きである。

しかし、本来活発な性格であるにもかかわらず、通常の学級における授業の中では自分の思っていることを言葉に出して発表したり、分からないことを質問したりすることに抵抗を感じている様子も見られる。さらに、初めて経験することや、初めて会う人へのかかわりに関しても消極的になる傾向も見られる。これは、聞こえに対する自信のなさや不安、分からないことを相手に伝えることへの恥ずかしさを感じていることに要因があると考えられる。また、情報を発信している相手の方を注視することなく、学習活動に参加していることもあり、大切な情報を得ることができず行動が遅れてしまったり、後でその内容について確認したりする場面も見られる。これは、相手の顔の表情や口形から得ることができる情報の大切さに気付いていないことが考えられる。

そこで、本題材では、まず、教師や友達とのやりとりを通じて、コミュニケーションを図ることの楽しさを十分に味わいながら、表現方法を十分に称賛されることで、自分の考えや感想を自信をもって発表することができるようにする。また、積極的に相手の伝えようとしていることを聞こうとし、口形も参考にしながら理解しようとする傾聴態度を身に付けるようにする。また、分からないところは自分から進んで相手に尋ねることができるような姿勢も身に付けることができるようにする。

指導に当たっては、通級指導の中で仲のよい友達と動画で近況を報告し合ったり、クイズのやりとりを行ったりする中で、相手に伝わった経験を多く積むことができるようにし、自分の表現方法を相手や教師から十分に称賛されることで、対象児が自信をもって他者とコミュニケーションを図ることができるようにしたい。また、動画によるクイズを使って、口形も大切な情報であるということに気付くことができるように工夫し、話している人の口形も参考にしながら音声聞き取ろうとする傾聴態度を育てていきたい。また、分からないことをそのままにせず、きちんと意思表示して相手に伝えることができたときには、ポイントシールをもらうことで、相手に尋ねることへの抵抗感を軽減していきたい。

このような学習を通して対象児は、傾聴態度を身に付け、コミュニケーションを図ることの喜びを感じながら、自ら積極的に活動に取り組んだり、周りに働きかけて自分が分かりやすい状況をつくったりすることができると思う。そのことが、対象児の自信につながり、また、生活の豊かさにつながっていくと考える。

(2) 題材の目標

- 友達や教師と動画のやりとりを楽しむことができる。
- 話す人の顔や口形を見て、相手の言った言葉を聞きとることができる。
- 分からなかったことを意思表示し、教師に伝えることができる。

(3) 対象児の実態

教育的ニーズ		<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の考えや気持ちを相手に聞こえやすい声で、自信をもって伝えることができる。 情報を発信する相手の方を見て、相手の口形も参考にしながら話を聞くことができる。 	
環境の把握	聴力	右	左
		裸耳 53dB 補聴器装用時 27dB	裸耳 44dB 補聴器装用時 24dB
コミュニケーション	語い・発音	<ul style="list-style-type: none"> 使える語いに関しては同学年の子どもとほとんど差は見られない。 発音は比較的明瞭であるが、サ行については、時々あいまいな発音になることがある。 	
	コミュニケーションの実態	<ul style="list-style-type: none"> 友達や家族と話をするのが大好きだが、会話が一方的になることがある。 集団の中では、自分の気持ちや考えを伝えることに抵抗が見られる。 周囲の状況にふさわしい声の大きさが意識できていないときがある。 相手の気持ちや状況を把握していないときがある。 	
	傾聴態度	<ul style="list-style-type: none"> 話をする相手の音声をよく聞き、それと共に口形を見て、積極的に相手の話す内容を理解しようとする姿勢が不十分である。 聞き取れなかった内容や理解できなかった内容を、相手に聞き返さずに、そのままにしていることがある。 	
	言語の形成	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名や片仮名については、丁寧に書けるものの、聞いたことをそのまま書くことは難しいときがある。 身近な出来事を、3語文程度の文章にして書くことができる。 	
	行動観察から(認知の特性)	<ul style="list-style-type: none"> 難聴のために、聞いたことを正確に書いたり、正確に理解したりする部分には多少の困難さがあるが、視覚的なものを手がかりとしたり、簡単な言葉で丁寧に説明したりすることで、十分理解することができる。また、見通しがもてないような活動に対しては、不安になる傾向が強い。 	

3 指導に当たって

本題材の指導に当たっては、子どもが「学び」をつなぎ、「学び」を生かし、達成感を味わうことができるように、以下の点に留意して指導をしていく。

○ 研究内容1 子どもが他者を意識し、「学び」をつなぎやすい状況づくり

- 対象児の通級指導は教師との1対1の個別指導の形態であるが、対象児が興味をもって課題に取り組み、友達や在籍学級担任とのやりとりを楽しむことができるような題材を設定することで、日常生活においても他者へ伝えるという意識や、他者からの情報を注意深く得ようとする意識を高めることができるようにする。
- 対象児は難聴のため聴覚的な入力については多少の困難さがあるが、短く簡単な言葉で口形をはっきりと見せて伝えることで、伝えたい内容を理解することはできるため、常に授業においては教師の口形が見えるように留意し、理解しているかどうかをその都度確認しながら会話を進めていくようにする。

○ 研究内容2 子どもが自己の「学び」を生かしやすい状況づくり

- 話す人の口形を見て内容が理解できたことや、分からないことを意思表示して、分からなかった話の内容が理解できたことで、コミュニケーションをこれまで以上に楽しむことができたという達成感を十分に味わうことができるようにする。また、学習した内容を家族や在籍校の先生に伝え、称賛されることで、達成感を味わうことができるようにする。

4 指導計画 (全6時間)

家庭や在籍校との連携

過程	時間	指導のねらいと主な活動内容
一 次	1	「動物クイズに答えよう」 【指導のねらい】 話す人の顔を見て、話の内容を聞くことができる。 【活動内容】 1 教師が出すクイズを聞いて、どんな動物のことを話しているのか答える。 2 自分でもクイズを出して教師に答えてもらう。
	1	「文房具クイズに答えよう」 【指導のねらい】 話す人の顔を見て、話の内容を聞くことができる。 分からないときには、質問することができる。 【活動内容】 1 教師が出すクイズを聞いて、どんな文房具のことを話しているのか答える。 2 自分でもクイズを出して教師に答えてもらう。
	1	「食べ物クイズに答えよう」 【指導のねらい】 話す人の顔を見て、話の内容を聞くことができる。 分からないときには、質問することができる。 【活動内容】 1 教師が出すクイズを聞いて、どんな食べ物のことを話しているのか答える。 2 自分もクイズを出して、教師に答えてもらう。
二 次	1	「見る聞くクイズに答えよう①」 【指導のねらい】 話す人の顔や口形を見て、話の内容を聞くことができる。 分からないときには、質問することができる。 【活動内容】 1 友達や教師からの動画のクイズを聞いて、答える。 2 友達にクイズを出す。
	1 (本時)	「見る聞くクイズに答えよう②」 【指導のねらい】 話す人の顔や口形を見て、話の内容を聞くことができる。 分からないときには、質問することができる。 【活動内容】※本時の展開参照
	1	「見る聞くクイズに答えよう③」 【指導のねらい】 話す人の顔や口形を見て、話の内容を聞くことができる。 分からないときには、質問することができる。 【活動内容】 1 友達や教師からの動画のクイズを聞いて、答える。 2 友達や担任の先生に動画のクイズを出す。

目 標
【家庭】 ○ 通級指導教室で学習した内容について家族に話すことができる。 【在籍校】 ○ 通級指導教室で学習した内容についてまとめたファイルを、在籍学級の担任に確認してもらうことができる。

【家庭】【在籍校】 (継続しての連携) ○ 在籍校や家庭での日常生活の中で、対象児が分からなかったことを尋ねた場合には十分称賛し、その尋ねた内容については、連絡帳を通して、通級指導担当者に伝えてもらう。
--

【家庭】(第1～6週) ○ 子どもが通級指導の際に作ったクイズを、保護者に伝わるように出すことができたなら、連絡帳で通級担当に知らせてもらう。 【在籍校】(第1～6週) ○ 担任の先生にファイルをチェックしてもらい、学級の中でも、子どもが作ったクイズを出してもらう。そのときの様子などを、連絡帳で通級担当に知らせてもらう。
--

5 本 時 (5 / 6)

(1) 目 標

- 自分の考えた答えを相手が分かる声の大きさで伝え、会話を楽しむことができる。
- 話す人の音声に耳を傾けながら、口形を注視して内容を理解しようとするができる。
- 教師や友達が話している内容や、活動の進め方が分からないときには、教師に自分の分からないところを伝えることができる。

(2) 展 開

☆はICT機器活用上の留意点

時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
(分) つ か む (5) --- み と お す (5) --- か つ ど う す る (32) --- ふ り か え る (3)	1 はじまりのあいさつをする。 2 前の時間の学習について振り返る。 ・ 今日と前の学習の日付を確認する。 ・ どんな学習をしたか振り返る。 ・ 家庭や在籍学級で取り組んだことを称賛する。 3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> よくみて、よくきいて、せいがいシールを、10こあつめよう。 </div> 4 先生のクイズに挑戦しよう。 (1) 教師のクイズ問題を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 第1ヒント 口の形だけで分かるかな。 (例)「答えは2文字です。○○。」 ○の部分は口の形のみで答える。 第2ヒント よく見てよく聞いて (例)「その生き物にはどくがあります。」 第3ヒント もっとよく見てよく聞いて (例)「その生き物は長いです。」 </div> (2) 教師(担当・学級担任)のクイズを聞いて答える。 (3) 分からないときは「わかりません。ヒントをください。」と答える。 5 友達からのクイズに同じ手順で答える。 6 友達や保護者に出すクイズを考える。 クイズを出しているところを録画し、相手に伝わりやすい声で、はっきりと話しているか、口形がはっきりしているかを確認する。 7 本時の活動を振り返り、自分の頑張ったことを発表する。 (1) めあてについて振り返る。 (2) 自分のよかったところを、教師から聞いて、ワークシートに書く。 8 おわりのあいさつをする。	○ 前時の活動を振り返る活動を通して子どもと会話し、受け答えの様子を観察することで聞こえの状態を把握する。 ○ 前時まで学んだことを生かすことができるように、前時に学習した内容を視覚的情報としてホワイトボードに提示しておく。 ○ 会話の中でサ行の発音に誤りがあった場合には、正しい音を聞いてその場で言うようにする。 ○ 教師が発する言葉の中で、意味が分からないものがあるときには質問するように促し、その場で調べたり確認したりすることで、語いを増やす機会や内容を理解する機会を逃さないようにする。 ○ 分からないところを意思表示できた場合にはチェック表にシールをはり、十分に称賛することで、積極的に相手に自分の理解度を伝えようとする態度を身に付けることができるようにする。 ☆ 相手の顔や口形を見ることが意識できるように、VTRを活用して聞くときのポイントを提示しておく。 ○ VTRで自分自身の話している姿を確認することにより、相手にしっかりと伝えるための大切なことを意識することができるようにする。 ○ 話す人の口形を注視して理解しようとしていたか、分からないときに尋ねることができたかを、今日の学習をめあてと結び付けて振り返り、称賛や励ましの言葉掛けをすることで、達成感を十分に味わうことができるようにする。